



スミス先生が暮らした家

北星学園創立百周年記念館

矢島 あづさ

よく似た外観の宣教師館

「私の母はここにスミス先生と一緒に暮らした」「昔、この建物は寮だったのよ」と卒業生が来館されることもあります。そのたびに、私は困ります。

北星の英語教師を辞し、北7西6に建てた家に、北星女学校20回生（1913年卒）の白浜ミカと一緒に暮らし始めました。



スミス先生(前列中央)と一緒に暮らした白浜ミカ(前列左)

には「6」と番号が記入され、右下のメモ6には「Missionary residences Mr. Lake Miss Smith」と書かれています。つまり、スミス先生がこの場所に住んでいた確かな証拠です。

残念ながら、建築家マックス・ヒンデルが南5条校地に宣教師館（現・北星学園創立百周年記念館）を建てたのは1926年。その頃、創立者のスミス先生は名誉校長、理事長に就いていました。ところが、

学校運営は1915年に校長に就任したモンク先生に委ねられており、「いつまでも前任者が傍にいと、モンク先生もやりにくいでしょう」と、住まいを学外に移されていたのです。



北7西6に建てたスミス先生の家

校地を検討した地図に証拠が

そこは、長老派の伝道局が宣教師館用地として1911年に購入した土地で、伝道局が建てた宣教師館には、1918年から北星女学校に勤めていたレオ・C・レーク宣教師一家も暮らしていました。スミス先生はその敷地の一角を借用し、自費で家を建てたのです。

北海道立文書館員、国文学研究資料館史料館教授・館長を務められ、史料管理学や日本近代キリスト教史を専門に研究されていた鈴江英一さんが来館された際、最も興味を示されたのは、2階に展示している「札幌市街之圖」（1923年発行）でした。



1951年、北7西6に建てられた北海道基督教會館(現・北海道クリスチャンセンター)



北4西1校地にあった宣教師館



長老派伝道局の宣教師館に住んでいたレーク宣教師一家

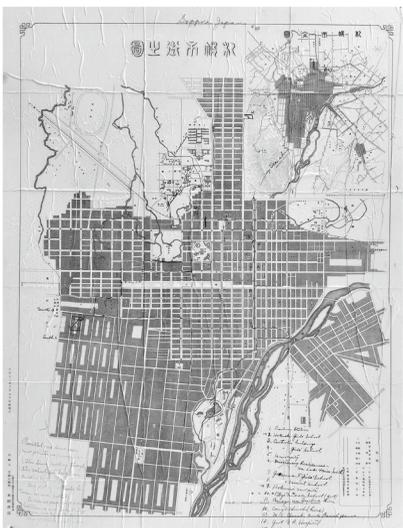
北星女学校が、南5条校地を購入する際に使用した地図で、当時の北4条校地をはじめ、北海道帝国大学（現・北海道大学）、カトリック女学校（現・藤女子高等学校）、北海道札幌師範学校、官営女学校、男子中学校、教会などの位置が手書きで記入されており、宣教師たちはこの地図を見ながら、北星の立地条件を検討したと思われます。ちなみに北7西6の位置

1951年、この土地にはキリスト者の研修、奉仕、地域との交流の場として北海道基督教會館（現・北海道クリスチャンセンター）が建てられました。設計はヴォーリズ建築事務所。長老派の米国人宣教師でもあり、メンソレータム軟膏を日本に広めたヴォーリズと北星との接点は、また次の機会に。

スミス先生がそれまで住んでいたのは、北4条校地に建てられた宣教師館で、当時の生徒たちは「西洋館」と呼んでいました。現在の記念館とよく似た外観ですが、右の写真をよく見ると、外壁はヒンデルの特徴である鉄板張りではなく、木造の下見板張りです。似ていますが、明らかに違う建物です。

そして、自宅でバイブルクラスを開き、豊平、銭函、山鼻などに増えていった日曜学校を支え続けました。この家には、帰国する1931年まで暮らし、北星の卒業生たちが頻繁に出入りしていたそうです。戦後、南5条校地の北西の角に移築され、寄宿舎「スミス館」として利用されました。

1921年、スミス先生は



札幌市街之圖 (1923年発行)

自費で建てたスミス先生の家